

ベストティーチング賞受賞教員の授業について

—更なる授業改善を目指して—

崇城大学 FD 委員会 麻田 直人* 編著

中島 厚秀** 島津 直史*** 山路 隆文**** 津曲 紀宏*****

宮本 秀一***** 安楽 誠***** ベンジャミン スナイダ*****

Lectures of the “Best Teaching Award” Winners

— Idea for improvement —

by

Written and Edited by Naoto ASADA*, Faculty Development Committee, Sojo University

Atsuhide NAKAJIMA** Naofumi SHIMAZU*** Takafumi YAMAJI****

Norihiro TSUMAGARI***** Shuichi MIYAMOTO***** Makoto ANRAKU*****

Benjamin SNYDER*****

要 旨

文部科学省は大学教育を充実させることを目的として、平成19年に大学設置基準を改正し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を実施することを各大学に求めた。ここでは「大学は授業の内容・方法の改善を図るための組織的な研修・研究を実施するものとする」と定め¹⁾ その具体的な方策として教員相互の授業参観、学生による授業評価の活用も重要、との提言を行って²⁾。

これらを受け FD 委員会は毎年、学生アンケートの結果を基にベストティーチング賞（以下「BTA」という。）に相当する教員を選出すると共に、その教員の授業参観を広く促す活動に取り組んできた。今回、本学教員の更なる授業改善に資することを目的として、平成28年度の BTA 受賞教員が行った授業構築の取り組みについて報告する。

Key Words: 授業改善 FD Faculty Development 授業評価 ベストティーチング賞

1. はじめに

平成28年度に実施された「授業に関する学生アンケート」で高い評価をうけた教員7名が BTA を受賞した。受賞教員と授業科目を「表-1」に示す。FD 委員会ではこれらの教員にそれぞれ「授業の概要」、「授業で気をつけていること」、「工夫したところ」、「授業改善に向けた提言」および「その他参考となること」について報告を求めた。以下にその報告と学生によ

*崇城大学工学部宇宙航空システム工学科助教
**崇城大学総合教育センター准教授
***崇城大学工学部宇宙航空システム工学科講師
****崇城大学情報学部情報学科教授
*****崇城大学総合教育センター助教
*****崇城大学薬学部薬学科教授
*****崇城大学総合教育センター SILC 講師
All authors are equally contributed

表-1

表彰区分	教員名	授業科目名	受講学生	履修者数	分野	必修/選択		
受講者 20~29名	1年	中島 厚秀	ベンチャー起業論 I	薬学	1年	29名	総合教育	選択
	2年	島津 直史	航空気象学 II	宇宙(操縦)	2年	25名	専門課程	選択
	3年~	山路 隆文	電磁波工学	情報	3年	28名	専門課程	選択
受講者 30~79名	1年	津曲 紀宏	微分積分学 II ③	機械・宇宙	1年	37名	専門基礎	機=選 宇=必
	2年	津曲 紀宏	行列と行列式	応用生命	2年	31名	専門基礎	選択
	3年~	宮本 秀一	蛋白高次構造と機能解析	薬学	6年	37名	専門課程	選択
受講者80名以上	安楽 誠	製剤学 III	薬学	4年	136名	専門課程	必修	
SILC*	ベンジャミン スナイダ	英語 II ①	情報	2年	26名	総合教育	必修	

*SILC: Sojo International Language Center

る授業アンケートの評価結果を記載する。また、各教員の授業にのぞむ姿勢を直接伝える観点から、報告原稿を極力原文のまま掲載した。そのために生じた文言・表現等の不統一についてはご容赦願いたい。

2. 「授業に関する学生アンケート」について

「授業に関する学生アンケート」は一連の授業の終盤にアンケート用紙を学生に配付し記入させる形で実施している。その質問内容は次の4項目に大別される。

1. 学生自身の授業への取り組み
2. 授業内容について
3. 教員との対話について
4. 授業方法について

今回のアンケート評価のグラフ化では上記1.は教員の評価に直接関係しないことから対象から除外した。対象となったアンケートの質問項目を末尾に「資料-1」として添付する。グラフを参照する上での参考にされたい。あわせて受賞教員の評価スコアとその他の教員の平均スコアの比較も行った。しかしながら集計システムのファイル構成上、アンケート項目毎の平均値算出が困難であったことから、今回は対象教員データ全体の平均値との比較に止めることとした。

3. 各教員の取り組みとアンケート結果

1) 担当教員 中島 厚秀

科目名 ベンチャー起業論 I

1-1) 授業の概要

「ベンチャービジネスとは何か」といった基本的な事項の学習から、ファイナンス、経営戦略の観点からの様々な基本理論やケーススタディ等を通して、ベンチャー型のビジネス全般について学ぶ。IOT、インダストリー4.0、AI、フィンテック、シェアビジネスなど、近年のビジネス環境の変化についても取り上げ、アントレプレナーシップ力（起業家精神）を養う。

1-2) 授業で気をつけていること

主体的な学びを促進するため、各回の講義のテーマと重要なポイントを明確にし、予習したWebclassの教材と、動画資料を連動させ、受講生が自ら考え、学びの成果を講義時間の中で発表できること。学生からの質問が増える等、授業を活性化するため、受講生全員に成果口頭発表の機会を設けるようにしている。

1-3) 工夫したところ

Webclassを活用した反転授業を徹底したこと。具体的には、学生が自分のペースで繰り返し学習できるよう、事前学習の教材を工夫作成した。また、多くの演習問題・事例・意見に触れられるように教材の構成、動画資料の選択を工夫した。

1-4) 授業改善に向けた提言

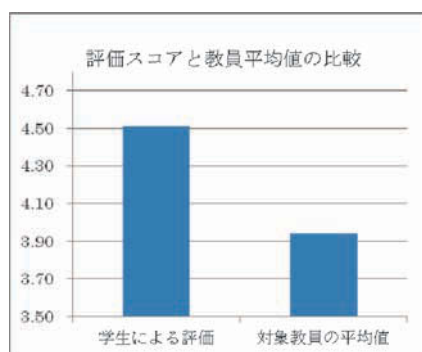
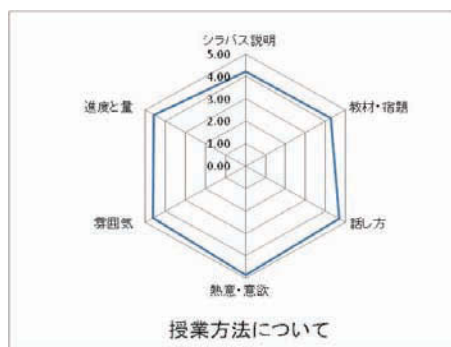
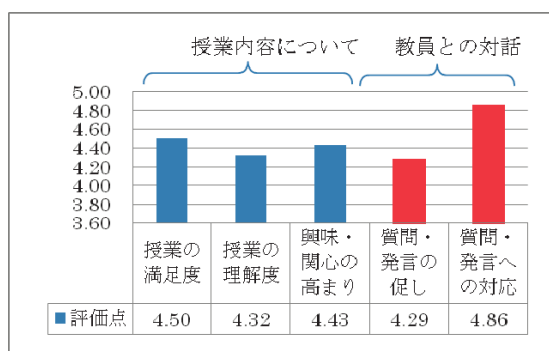
学生自身の自主的で協調的な学びを引き出し、学習意欲向上を図るため、事前学習動画教材の質の向上。

授業内容の振り返りや内容理解を助けるワークシートの効率的な活用。

1-5) その他参考になること

50人以上の多人数授業でも、講義部分をスライド（テキスト、図、写真で構成）や動画として事前提供することで、貴重な対面授業を、学生にとって一方的・受動的な知識伝達から、学生自身の主体的・協調的な学び合いの時間（AL 活動）に転換することが可能である。

1-6) 授業アンケートの結果



2) 担当教員 島津 直史

科目名 航空気象学Ⅱ

2-1) 授業の概要

将来、パイロットとして飛行する際に天気の良い時は問題ないが、悪い時あるいはこれから悪くなることが予想される時、いかに安全に飛行できるかはそれら天候の変化を予測できる気象の知識が必要不可欠である。

この課程では、地球大気の組成からはじまり、ジェット気流の構造に至るまで、気象現象の基本的な内容について学習し、その中で飛行に必要な気象学、すなわち、前線、乱気流、着氷、雷電、熱帯低気圧等のしくみや気象通報式・天気図の見方等、航空気象学の基礎について学ぶ。

航空気象の基礎を身に付けることで、飛行の可否を判断する基準を自分なりに持って安全に飛行を行うことができるようになる。

2-2) 授業で気をつけていること

気象現象の説明をするときに、その現象を学生が想像し理解しやすいように自己の経験または体験したことを話している。（例：飛行中着氷に遭遇したとき、高度の保持が困難だった等）

授業中の学生からの質問に、その場で答えられないときは後日調べて必ず質問をした学生に回答している。

2-3) 工夫したところ

教材のパワーポイントは、極力分かりやすいコンテンツを使うようにアップデートしている。特異な天気現象があったときは、授業内容の進捗にかかわらず、その現象の説明をして学生の理解を深めている。（例：寒冷渦、南岸低気圧等）これは、実際に目の前で起こっていることのしくみが分かればその気象現象をより実感できるため、機会教育として実施している。

2-4) 授業改善に向けた提言

より分かりやすい授業を心がける。そのため難しいことをなるべく平易な表現に変えて説明をすることで、学生も抵抗なくあるいは素直に吸収し理解につながるものと考えます。また授業の中で体験談を話すことでパワーポイントの絵だけではなく話の内容から学生が想像した情景

が脳裏に焼き付いて印象が深まるのではないかと思います。

このような、分かりやすく印象に残る授業を目指すことで学生の理解度を向上させたい。

2-5) その他参考になること

質問の意義について

◎質問の効果

- (1) 学習効果を高める。
- (2) 学習者を議論に参加させる。

◎質問の種類

- (1) 質問のための質問……

①どれくらいの情報をもっているか確認する。

- (2) 助言的質問……

②他に考えていることは何かを引き出す。(学習者の問題意識、悩みに助言を与える。)

③間違っていて理解をしていないかを確認める。

- (3) 刺激剂的質問……

20分位が限度。突然の質問で講義を活気づける。

◎質問のしかた

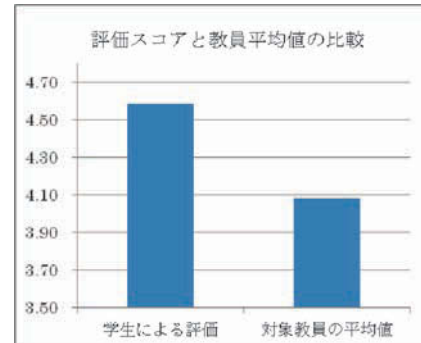
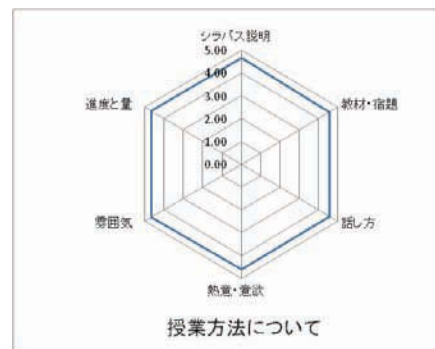
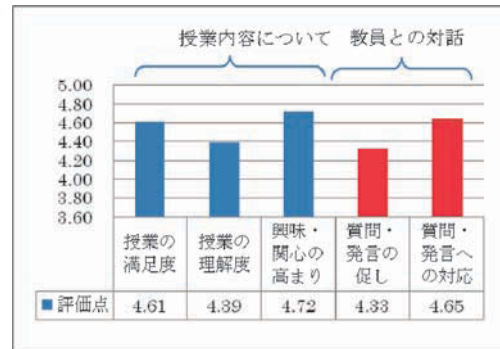
- (1) 全体の質問から個別的質問へ
- (2) 質問の趣旨を徹底させる
- (3) フィードバックを忘れない
- (4) 複数の人に投げかける
- (5) 考える余裕を与える

◎答えを受けたなら

答えを受けたなら、「ありがとう。」を加える。

ある文献³⁾に質問について、このようなことが書かれていました。参考までに紹介します。

2-6) 授業アンケートの結果



3) 担当教員 山路 隆文

科目名 電磁波工学

3-1) 授業の概要

アンテナと信号ケーブルに関する講義である。テレビ受信用として利用される八木アンテナや衛星放送受信用のパラボラアンテナ、GPS 受信用のパッチアンテナなどの身近なアンテナが電波を受ける、または放射するしくみと、アンテナと無線機をつなぐケーブルが電波を放射することなく電波を運ぶしくみについて学ぶ科目

である。

3-2) 授業で気をつけていること

国家試験（第一級陸上無線技術士）合格のために理解すべき内容は確実に押さえる必要がある。一方でアンテナの設計者育成が目標ではないのでアンテナを利用する側の立場に必要な内容に絞った。数式による説明はできるだけ避けて図を用いて（パワーポイントで事前に準備して）イメージをつかめるようにした。ただし資格試験対策としては数式を覚える必要がある。必要な数式についてはできるだけ図と組み合わせる意味の説明をするように心がけた。

3-3) 工夫したところ

伝統的な教科書はモノクロ印刷であり図の表現が質素で数式による理解を前提としている印象でありあまり利用しなかった。立体構造の平面上での表現に苦勞しながらもアンテナやケーブルの構造と電磁界の関係を色分けして図にするようにした。授業は（前回の演習の解説）－（講義）－（演習）の構成とし、演習は仲間との相談は可として教室内を巡回して声掛けし、状況によっては追加説明を行った。

3-4) 授業改善に向けた提言

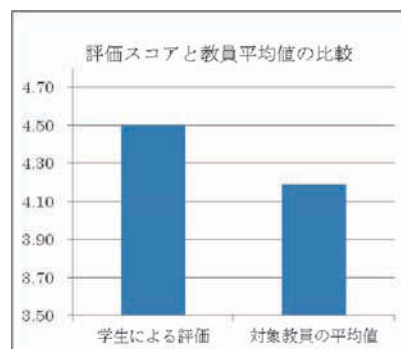
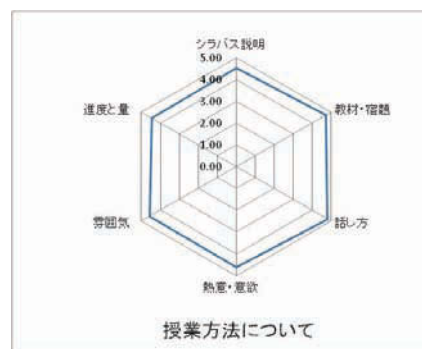
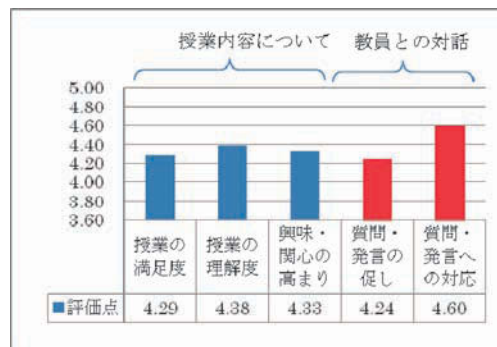
受講者が多いと難しいと思うができるだけ受講者と対話をするのがよいと思う。

3-5) その他参考になること

会社勤めのエンジニアから教員になったので授業のスキルを持ち合わせていない。持ち合わせていないものは仕方ないので、「この説明でOKか？」と受講者に問い続け、相手の反応に応じて場合によっては説明をやり直す必要がある。幸い、私の専門は一方通行の放送（Broadcasting）ではなくて双方向の通信（Communication）であり、「受信した」という通知（Acknowledgement）を求めるのが技術の上でも習慣である。演習は対話のツールでもあり、授業中のクラス全体への問いかけには応じない受講者も、演習中に個別に声をかけると感想や意見を聞くことができる場合がある。感想

や意見にも「受信した」という反応を示すように心がけた。

3-6) 授業アンケートの結果



4) 担当教員 津曲 紀宏

科目名 微分積分学Ⅱ③

4-1) 授業の概要

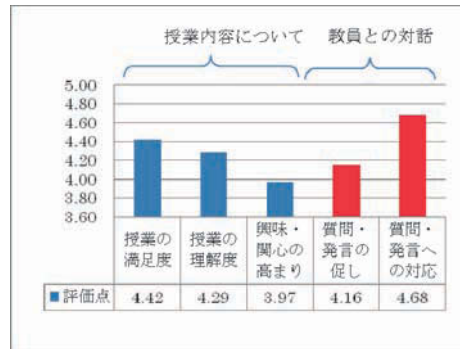
微分積分学Ⅰに引き続き、微分積分学の基礎を学ぶ。Ⅱでは、特に積分・偏微分・重積分・微分方程式を扱う。微分積分学の諸概念とその応用力を習得し、問題解決に活用できるように

なる。本講義は演習も兼ねているため、週2コマ15週の計30回で構成される。

4-6) 授業アンケートの結果

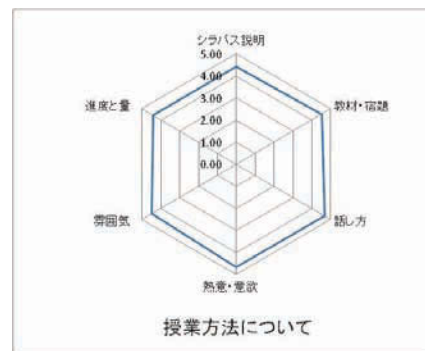
4-2) 授業で気をつけていること

単元によって差異はあるが、1回の講義はおおよそ「講義・演習・演習解説」の3本立てで行っている。概要・動機からスタートし、要点をしぼって出来るだけ冗長にならないよう講義を進めている。



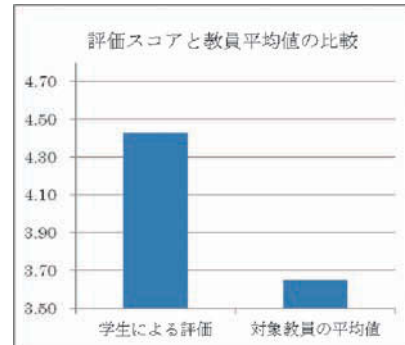
4-3) 工夫したところ

定期的に小テストを行い、習熟度の確認を行っている。回収した小テストはチェックした上で学生に返却し、間違えた原因を自身で確認できるようにしている。また、小テストとは別に、大きな単元が終わるごとに確認テストも行った。定期試験と比べて、より狭い範囲に集中できるため、学生にとって学習しやすかったようである。



4-4) 授業改善に向けた提言

月並みですが、学生との適切な関係づくりが肝要であると心得ます。本講義は学生と接する時間が長いため、通常の全15回の授業よりは学生との関係作りが多少容易であるかもしれませんが、一方、長丁場ですので、一度つまずくと復帰が難しくもなります。小手先ではありますが、学生と接するときの立ち振舞い、身体の向きなども重要な要素の1つと考えます。例えば、演習の間に質問を受けたときなどは、学生の横に立って話すようにしています。学生目線で見ること、学生がつまづいている問題をシェアし、解決の道へ導くことが容易になります。また、そういった姿勢を見せることで、学生がその後も質問しやすくなればと思っております。



4-5) その他参考になること

特にありません。

5) 担当教員 津曲 紀宏

科目名 行列と行列式

5-1) 授業の概要

線形代数学の基礎にあたる行列・行列式について学ぶ。線形代数学は微分積分学と並んで、数学の基礎知識として重要である。本講義では、行列および行列式について、基礎知識・計算・応用を学習する。

5-2) 授業で気をつけていること

1回の授業はおおよそ「(前回学んだ事についての)小テスト・講義・演習」の3本立てで行った。全15回の授業であるので、小テスト・演習にそれほど多くの時間を割けないが、前年度の授業アンケートで要望があったため、可能な限り取り入れることにした。講義については、概要・動機からスタートし、要点をしぼって出来るだけ冗長にならないよう講義を進めたが、理論上重要な事柄、教科書に書かれていない事項は丁寧に扱った。

5-3) 工夫したところ

ほぼ毎回小テストを行い、習熟度の確認を行った。小テストはその場で解答を発表し、正解不正解を確認させたのち回収。回収した小テストはチェックした上で学生にフィードバックし、間違いの原因を自身で確認できるようにした。

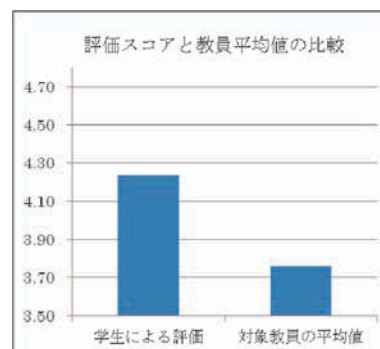
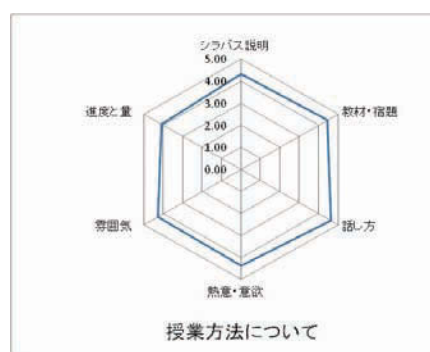
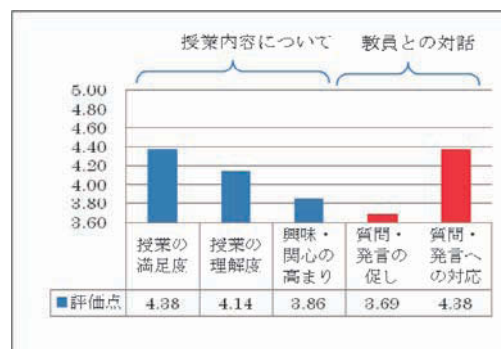
5-4) 授業改善に向けた提言

私が日頃の講義で気をつけているのは、出来る限りポジティブワードを使うことです。例えば、学生が行った計算が途中で間違っていた時、ミスした箇所を「ここがダメ」と指摘するのではなく、その1行上を指して「ここまでは出来ている」と伝えるようにしています。両者は「改善すべき点を伝えている」という意味では同じですが、後者は「出来ている部分を評価している」ことを含意しています。例え部分的であっても評価してあげることは、学生の自信に繋がります。自信や意欲を損なわずに次の課題に取り掛かるようになればと思っております。

5-5) その他参考になること

特にありません。

5-6) 授業アンケートの結果



6) 担当教員 宮本 秀一

科目名 蛋白高次構造と機能解析

6-1) 授業の概要

蛋白質の構造と機能を理解する基礎となる物理化学的概念に焦点を当てて学習する。(6年次選択科目)

6-2) 授業で気をつけていること

毎回演習問題を解かせた後に学生からの質問を受け、それが終了後、今度は私が学生の名前

を呼んで質問する形で授業を進め、「ノートは取るな！心に刻め！」方式を心掛けました。なお、最後に解説を配布して自宅でゆっくり復習できるようにするとともに、宿題を課してそれを次回解説しました。130人を超えるような必修科目ですと、全ての学生の名前を覚えたり、全員に質問したりすることは困難ですが、30名程度ですと、それが可能なので、コミュニケーションしながらの授業に努めました。また、時々には学生に黒板に図を描かせて説明させるようにして、気分転換を図るようにしました。

6-3) 工夫したところ

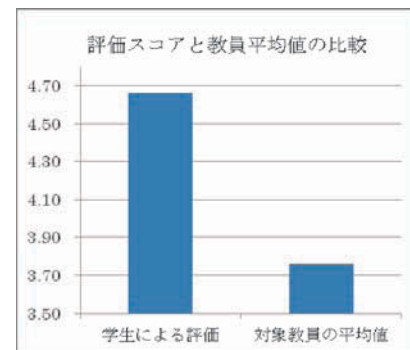
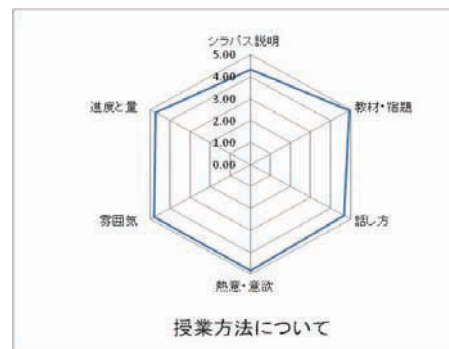
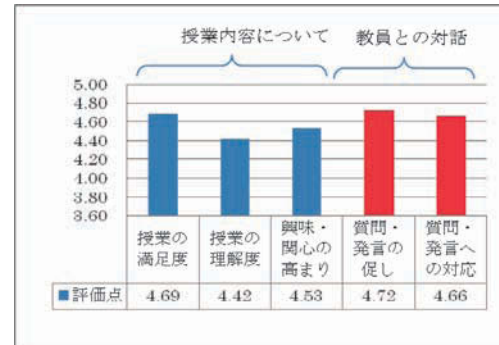
2回目の授業のあたりで、熊本地震で大学が休校となりました。本科目の履修生である6年生は国家試験勉強を進めなければならないのに大学で授業がないため、かなり不安になっていると想像できました。そこでメール配信授業をしたらどうかと考え、担任の先生にも相談し、担任の先生の協力を得て履修学生に「演習問題」をメール配信して自宅で勉強を続ける形式はどうかと尋ねて頂いたところ、学生は皆やるということでしたので、実施することとしました。具体的には、次のようになります。まず、演習問題を学生にメール配信します。学生はそれを解いて、わからなかったところや疑問点を私にメールで質問します。それに対して私が一人ずつ回答します。それがほぼ終わった時点で、質問対応なども含めてまとめた「解説」をメール配信するというサイクルで行いました。授業中に積極的に質問をしてくる学生は少ないですが、メールですと9割ほどの学生が質問や確認をしてきました。

6-4) 授業改善に向けた提言

工夫すべき点はある程度わかっているも、それを具体化する技術や時間が不足していると感じている先生方は、私も含めてそれなりにいると思います。そこで、それらを補うためのワークショップを、テーマを絞って何回か開催すると、効果的かと考えます。

6-5) その他参考になること
特にありません。

6-6) 授業アンケートの結果



7) 担当教員 安楽 誠

科目名 製剤学Ⅲ

7-1) 授業の概要

本科目では、生化学、解剖学、体内動態学（吸収、分布、代謝、排泄）などの生物学的観点からみたドラッグデリバリーシステム（DDS）について、その基礎概念と応用例につ

いて学習する。さらに、アドバンスとして製剤添加物として利用されている各種オリゴ糖や多糖類と薬物との複合体形成の機序およびその複合体を利用した実際の DDS 製剤について学習する。

7-2) 授業で気をつけていること

本科目は、文部科学省改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム⁴⁾の「E5製剤化のサイエンス」の一部である。そのため、通常の講義に加えて、薬剤師国家試験を想定した前回講義内容の小テストと講義後の演習を毎回行うことにより、学生の習熟度を確認している。またその確認内容を次回の講義内容に反映させて講義を進めている。

7-3) 工夫したところ

90分の講義時間を、はじめに「国家試験問題を含めた小テスト」、次に「講義」、最後に「演習」と時間を区切ることにより、個々の集中力を持続させ、個々の習熟度の向上に努めた点。

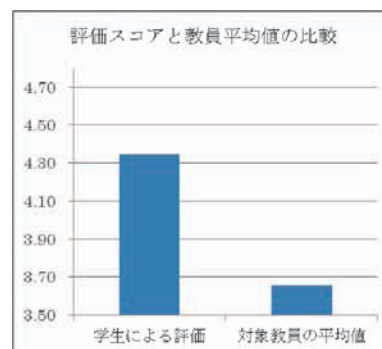
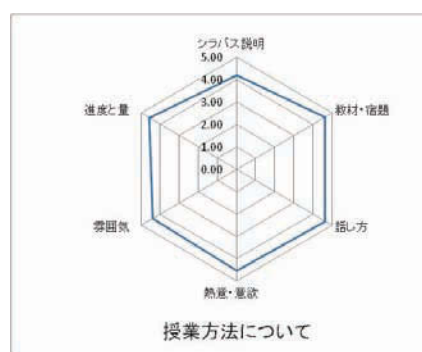
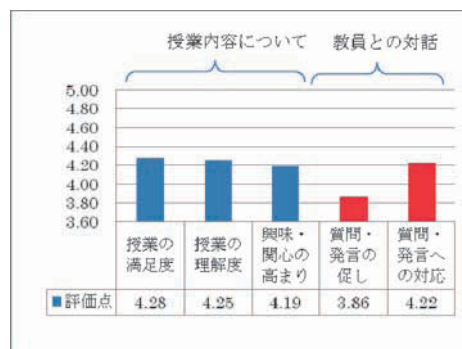
7-4) 授業改善に向けた提言

講義の内容が、薬剤師の仕事とどのように関係しているかを学生に説明することにより、講義の目的を明確にして、学生のモチベーションを継続させることが重要であると考えている。

7-5) その他参考になること

文部科学省改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの内容を自分の分野だけでなく、全分野を把握すること。

7-6) 授業アンケートの結果



8) 担当教員 ベンジャミン スナイダ 科目名 英語Ⅱ◎1

8-1) Lecture summary

This class centers on developing English communicative ability as it relates to students' past schooling, current university life, and future plans. Additionally, students will learn to describe their campus and field of study. Students use tools such as Moodle Reader to practice extensive reading skills, as well as a speed reading program,

continued journal writing, and more to learn how to continue English study beyond university.

8-2) Important Points

One of the most important things we teach in English Communication class is that we are not seeking perfection from our students. After all, what is “correct” English? Is it the same for all people in all circumstances? Such expectations are often counterproductive in practice, when research has repeatedly shown that effective methods of language learning incorporate learning from mistakes as part of the process. While concepts and raw vocabulary can be learned systematically, a common misconception is that students should then be able to immediately frame this foundation to produce a standardized English without error in a real-world setting. In primarily monolingual environments, there can also be a cultural tendency to vastly overemphasize the importance of perfect language output, to the point where pragmatic learning methods are inhibited with learners who are convinced that because they make some errors in a new language, that they can't learn a language at all. I know such notions to be untrue because I have also had similar experiences as a student. One of my goals in the classroom is to increase awareness of what real language learning looks like.

8-3) Unique Ideas

It is important to recognize the differences between textbook English as learned by rote and grammar translation in the public school system. Despite several years of general English study, English for communication is an activity that most of our students have had little or no experience with, but this does not mean that they are incapable of doing so. It is simply a skill that needs to be practiced, just as a pianist must play simple pieces, again and again and again. To extend this metaphor, what students have learned in public schools so far isn't how to play piano in a concert hall. He or she may have listened to a few CDs,

learned how to read basic sheet music, found a few keys and played a scale or two, but there is a difference. In the case of English communication, the piano is a duet; the music an improvisation. Naturally, these are challenging circumstances! Does this mean that a student cannot learn to play, or shouldn't? Of course not. There is a very real need for the new generation of Japanese people to gain English ability in order to adapt to irrevocably shifting realities in our environment, economy, social consciousness, and way of life. Nevertheless, these circumstances can create daunting barriers to learning. In two years of study at Sojo, our program aims to reduce these barriers, and create as smooth a transition to skills-based study as possible. Through building rapport with students, creating engaging, fun, and highly relatable course content, and instilling confidence with repeated practice, we attempt to frame as comfortable and ultimately as efficient a system for studying English as possible alongside their primary field of study.

8-4) Suggestions for Lecture Improvement

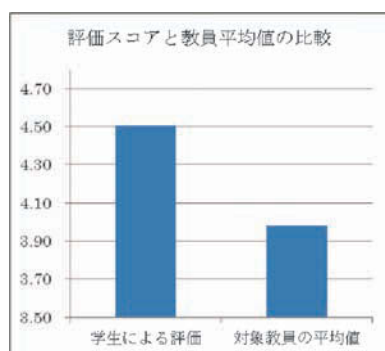
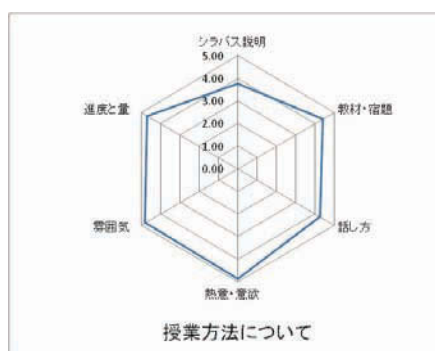
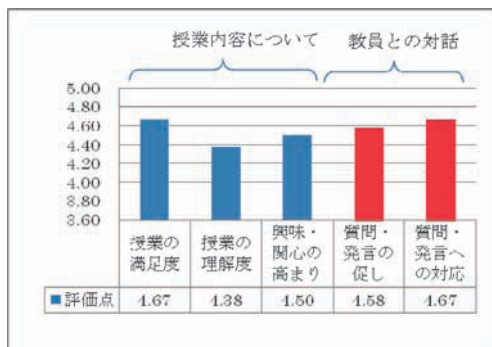
On “learning how to learn”: This class is less about direct English knowledge, and more about equipping students with the perspective and the means to communicate effectively (in any language) if they so choose in the future. There will always be improvements to be made in our program, (I have a personal research focus on supporting male student motivation and continued study for students in the pilot program after the end of their initial two-year English requirement), but I am very fortunate to have the incredible mentoring support of the entire English department at my back, and truly would not have been able to dedicate nearly as much of my energy on my students without it. That any of this is possible is owed to the collective effort, planning, and experience they have so generously and selflessly shared with me. I can only hope to pay it forward by sharing this confidence and raw enthusiasm for English learning with as many students as possible.

8-5) Additional Information

None

- ・ 2名の教員は Webclass・Moodle といった e-Learning 教材の使用を報告している。

8-6) Result of students' evaluation



4. 結果と考察

今回の7名の BTA 受賞教員の報告を以下のとおり整理する。

1) 教材について

- ・ 3名の教員がカラー図解・動画等の視覚的に分かりやすい教材の開発を報告している。

2) 授業の手法について

- ・ 3名の教員が講義・演習・解説といった3段階方式の授業構成を報告しており、国家試験等の資格取得に関連する授業でこの傾向は顕著であった。
- ・ 2名の教員が e-Learning を活用したアクティブ・ラーニングを報告しており、いずれも総合教育であった。
- ・ 2名の教員から実務や実際に発生した事例との関連づけた講義の報告があり、いずれも専門課程での授業である。

3) 学生との接し方について

多くの教員が「学生との接し方」に言及している。報告に含まれていた「キーワード」を列記する。

- ・ 学生の能力を引き出す
- ・ 学生への謝辞
- ・ 学生との対話の促進
- ・ 学生の目線で見ると
- ・ ほめる
- ・ 完全を求めない
- ・ 学修のバリエーションを下げる

また、2名の教員からは「いったん学修にまよき興味を失うと、その後の復帰が困難、そうならないように注意する必要がある」といった旨が報告されている。いずれも数学・英語といった基礎科目での事例である。

以上を総合すると、全て「授業に関する学生アンケート」で高い評価を受けた授業ではあるものの、教育の分野（総合教育・専門基礎・専門課程）の相違や、国家試験等の有無などによって、その授業の手段・手法が大きく異なっていた。また報告者も着任初年度の教員から BTA を複数回受賞の教員まで、その経験年数、経歴、年齢等は様々である。しかしながら、7名の教員に共通していたのは、分かりやすい教材の作成、授業手法の開発を進めると共に、学生に寄り添った授業構築に積極的に取り組んで

いることである。

また「地震での休講に際してのメールを活用した遠隔指導」といった臨機対応の報告のとおり、これらがあの熊本地震で被災した環境下で開講されたものであることも特記しなければならない。

今回の報告された様々な「工夫」や「改善提言」は総合大学としての本学の多様性を示すものである。これらの貴重な情報は、各分野の教員に広く共有され、各々の授業改善に活用されなければならない。しかしながら、今回の取りまとめはFD委員会として初めての試みでもあり、作成期間も限られていたことから、内容的に十分に整理されたとはいえない部分も残ることになった。

それらをふまえ、今後検討すべき課題を次のとおりとする。

- ・BTA 受賞教員への質問項目の具体化
- ・報告内容の系統的な分析と整理
- ・アンケート評価スコア・データの集計・分析方法の検討
- ・報告された内容の「授業の進め方」⁵⁾ への反映

FD委員会は、これらの課題に取り組み、今後も継続的にBTA受賞教員の授業内容を広く発信することにより、全学的な授業改善を目指した活動を推進していくこととする。

委員会のミッションの一環として取りまとめられたこの報告が本学教員の授業改善、特に新任教員の質の高い授業構築の一助となれば幸いである。

謝辞

今回の報告の取りまとめにあたり、ご多忙にもかかわらず、多数の貴重なご助言とご支援を賜りましたFD委員会のメンバー各位に篤く御礼申し上げます。また報告書の依頼・取りまとめ、アンケート・データの収集にご尽力頂きました教務課の関係各位、英文校正にご協力頂きましたSILCの担当各位に合わせまして深謝いたします。

参考文献

- 1) 大学設置基準 第25条の3
- 2) 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室 HP
- 3) 「教育訓練技法ハンドブック」日本航空運航乗員訓練部刊
- 4) 葉学教育モデル・コアカリキュラム—平成25年度改訂版— (p. 79-81)
- 5) 「崇城大学教員必携 授業の進め方」第6版 崇城大学刊

資料－ 1

集計対象としたアンケート項目

授業内容について

- (1) この授業の満足度はいかがですか。
5)とても満足 4)おおよそ満足 3)普通 2)やや不満 1)不満 5 4 3 2 1
- (2) この授業内容を理解できましたか。
5)とてもよく理解できた 4)おおよそ理解できた 3)普通 2)あまり理解できなかった 1)理解できなかった 5 4 3 2 1
- (3) この授業を受けてその内容に興味や関心が高まりましたか。
5)多いに関心が高まった 4)少し関心が出た 3)普通 2)あまり関心が湧かなかった 1)関心が湧かなかった 5 4 3 2 1

先生との対話について

- (1) 先生は授業の中や授業外で学生の質問や発言を促しましたか。
5)おおいに促した 3)促した 1)全く促さなかった 5 3 1
- (2) 学生の質問に対して先生の対応はどうでしたか。
5)とてもよく対応された 3)普通 1)うまく対応されなかった 5 3 1

先生の授業方法について

- (1) シラバスの説明がありましたか。
5)わかりやすい説明があった 3)説明があったがわかりにくかった 1)説明がなかった 5 3 1
- (2) 授業に使用した教材や宿題は授業内容を理解するのに役立ちましたか。
5)とても役に立った 3)多少は役に立った 1)役に立たなかった 5 3 1
- (3) 先生の話し方は聞き取りやすかったですか。
5)とても聞き取りやすかった 3)普通 1)とても聞き取りにくかった 5 3 1
- (4) 授業に対する先生の熱意や意欲を感じましたか。
5)とてもよく感じた 4)やや感じた 3)普通 2)あまり感じなかった 1)感じなかった 5 4 3 2 1
- (5) 授業中の勉強する雰囲気は良かったですか。
5)とても良かった 4)良かった 3)普通 2)あまり良くなかった 1)良くなかった 5 4 3 2 1
- (6) 授業の進む早さと量はあなたにとって適切でしたか。
5)適切だった 3)普通 1)不適切だった 5 3 1

